

# 河川整備基金だより

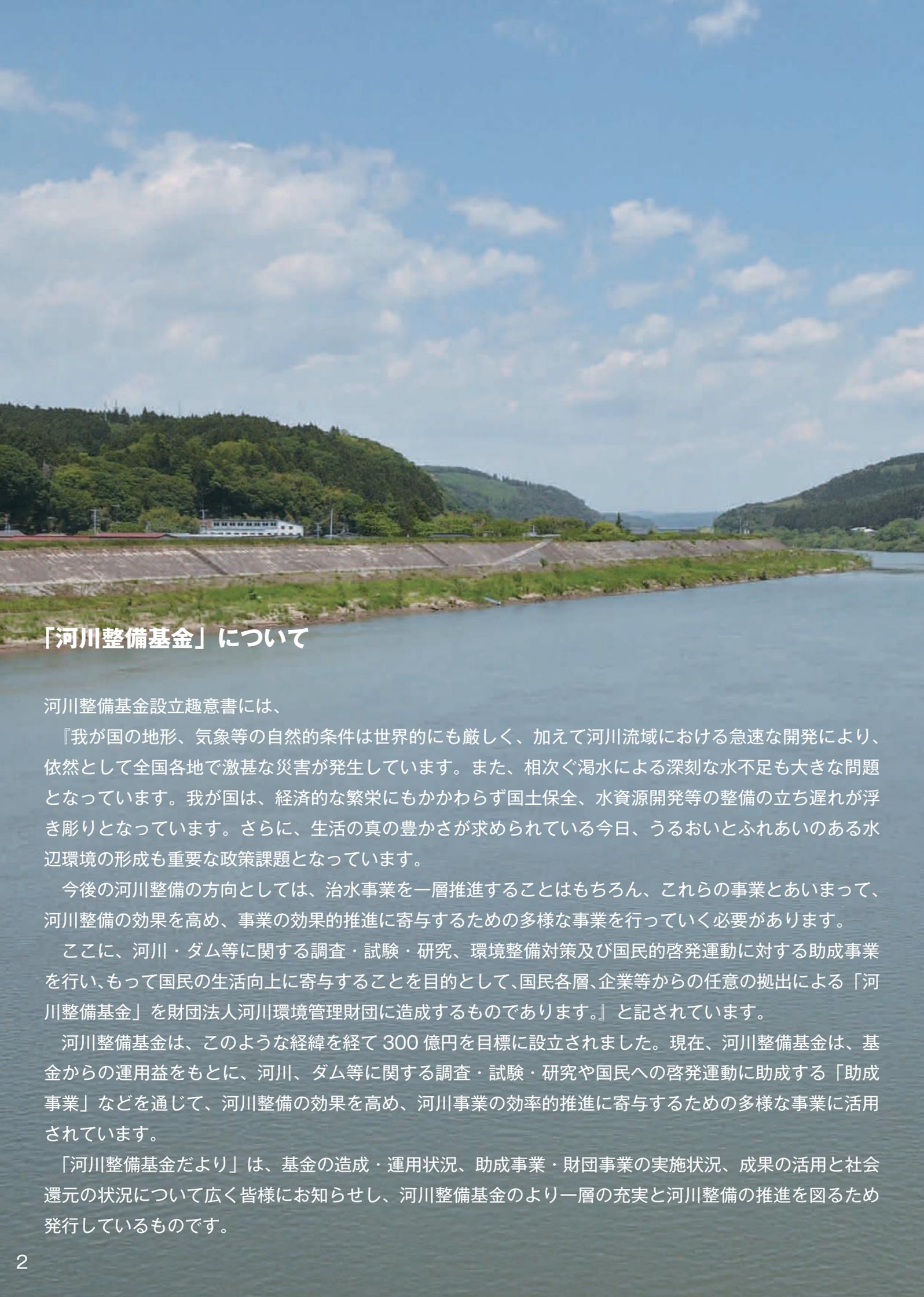
よりよい河川環境をめざして

第29号  
2012



財団法人 河川環境管理財団

Foundation of River & Watershed Environment Management



## 「河川整備基金」について

河川整備基金設立趣意書には、

『我が国の地形、気象等の自然的条件は世界的にも厳しく、加えて河川流域における急速な開発により、依然として全国各地で激甚な災害が発生しています。また、相次ぐ渇水による深刻な水不足も大きな問題となっています。我が国は、経済的な繁栄にもかかわらず国土保全、水資源開発等の整備の立ち遅れが浮き彫りとなっています。さらに、生活の真の豊かさが求められている今日、うるおいとふれあいのある水辺環境の形成も重要な政策課題となっています。』

今後の河川整備の方向としては、治水事業を一層推進することはもちろん、これらの事業とあいまって、河川整備の効果を高め、事業の効果的推進に寄与するための多様な事業を行っていく必要があります。

ここに、河川・ダム等に関する調査・試験・研究、環境整備対策及び国民的啓発運動に対する助成事業を行い、もって国民の生活向上に寄与することを目的として、国民各層、企業等からの任意の拠出による「河川整備基金」を財団法人河川環境管理財団に造成するものであります。』と記されています。

河川整備基金は、このような経緯を経て300億円を目標に設立されました。現在、河川整備基金は、基金からの運用益をもとに、河川、ダム等に関する調査・試験・研究や国民への啓発運動に助成する「助成事業」などを通じて、河川整備の効果を高め、河川事業の効率的推進に寄与するための多様な事業に活用されています。

「河川整備基金だより」は、基金の造成・運用状況、助成事業・財団事業の実施状況、成果の活用と社会還元の状態について広く皆様にお知らせし、河川整備基金のより一層の充実と河川整備の推進を図るため発行しているものです。

## CONTENTS

「河川整備基金」について .....	2
平成 23 年度は、東北地方で被災した子どもたちに対して河川整備基金による緊急支援を実施しました .....	4
財団事業で「被災した児童を勇気づけるために行う川での活動に対する緊急支援」を実施しました .....	4
河川整備基金による緊急助成事業を実施しました .....	5
平成 23 年度は、国内水害緊急調査 3 件及び海外水害緊急調査 1 件について助成しました .....	6
第 6 回世界水フォーラム（フランス・マルセイユ）へ子どもたちを派遣しました .....	7
平成 23 年度河川整備基金助成事業成果発表会開催報告、「川に学ぶ全国事例発表会」開催報告 .....	8
平成 23 年度河川整備基金助成事業（調査・試験・研究部門）の優秀成果について .....	9
平成 23 年度河川整備基金助成事業（国民的啓発運動部門）の優秀成果について .....	10
平成 23 年度河川整備基金運営審議会開催報告 .....	11
河川整備基金事業 平成 23 年度決算と平成 24 年度予算の報告 .....	12
平成 24 年度河川整備基金事業計画 .....	13
Ⅰ. 助成事業 .....	13
Ⅱ. 財団事業 .....	14
Ⅲ. 事業諸費 .....	14
平成 24 年度河川整備基金助成事業の変更点等について .....	16
平成 24 年度助成事業総括表 .....	17
平成 24 年度河川整備基金助成事業における所属機関別申請件数 .....	18
河川整備基金助成事業による研究成果表彰制度を創設しました .....	19
河川整備基金のホームページでいろんなことができます .....	20
過去の助成事業における研究成果や啓発活動、環境整備対策事業成果の全文検索ができます .....	21
お知らせ .....	22
助成事業の年間スケジュール予定 .....	24

## 平成23年度は、東北地方で被災した子どもたちに対して河川整備基金による緊急支援を実施しました

河川整備基金を活用して、平成23年の夏に子どもたちに川での遊びや学びによる野外での体験を提供することによって、これからの復旧・復興への勇気を与えるため、財団事業(当財団が自ら実施する事業)及び助成事業で緊急的に支援を行いました。

財団事業では、東北地方の子どもたちに対する支援を、助成事業では全国に避難している子どもたちに対する支援を実施しました。

## 財団事業で「被災した児童を勇気づけるために行う川での活動に対する緊急支援」を実施しました

### 東北地方の被災した児童等に対する川での体験活動の実施

### 「子ども森水キャンプ」～森と水辺にふれあいながら自然といっしょに遊ぼう!～

ねらい：東日本大震災で大きな被害があった宮城県、岩手県の子どもたちに、豊かな森と美しい川という普段とは異なる自然環境の中で、野外活動や宿泊体験を通じて、仲間とふれあい、楽しく元気に遊んでもらい、これから続く復旧・復興への勇気を得てもらう。

主催：(財)河川環境管理財団

委託先：NPO法人川に学ぶ体験活動協議会(RAC)

運営：RAC・東北被災地応援プロジェクト実行チーム

期間：平成23年8月15日(月)～19日(金)

開催地：「国立花山青少年自然の家(宮城県栗原市花山)」(参加者数:小学生46名、中学生2名、計48名)

※キャンプ指導者は、子どもたちの心のケアに配慮できるように、事前に臨床心理士の研修を受ける。



淵での飛び込み体験



天然の滑り台で滑ってみました

水辺の体験学習の様子



子どもたちの笑顔が印象的です  
(体験活動最終日の集合写真)

平成23年 8月19日

## 河川整備基金による緊急助成事業を実施しました

平成23年3月に発生した東日本大震災に伴う小学校や児童を支援するため、平成23年6月以降に緊急的に助成事業を実施しました。

国民的啓発運動(子どもたちを勇気づける緊急助成)として、東日本大震災による被災や避難指示等により全国各地で避難生活等を余儀なくされている児童に対し、水に対する教育、川を題材とした体験活動や避難先の児童との川を通じた交流等を提供するNPO等の団体、市町村、小学校を対象として、東日本大震災で被災した児童を勇気づけるための、川での遊びや学びによる野外での体験を提供する活動に対する助成を行いました。

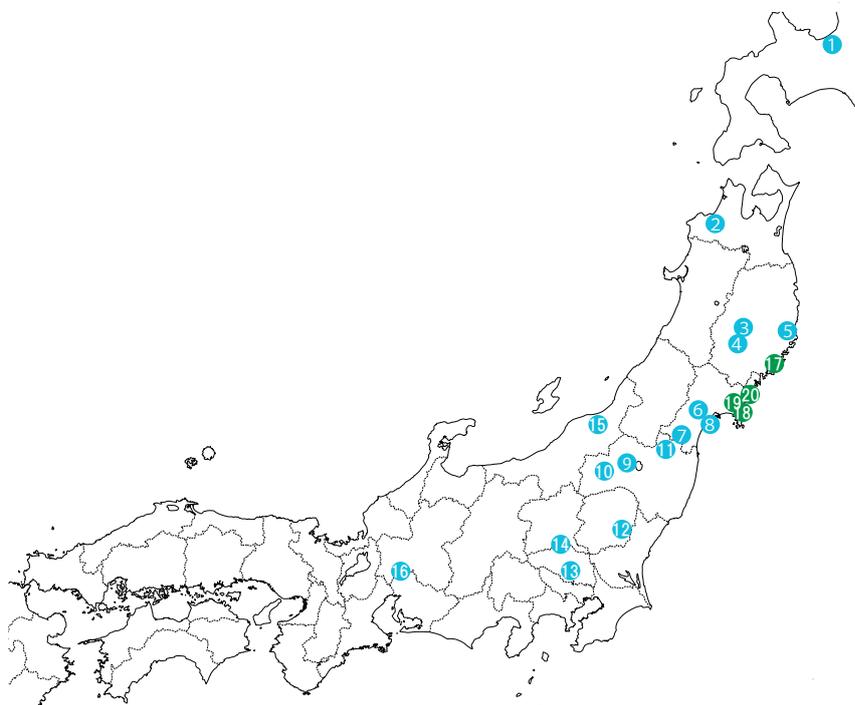
また、国民的啓発運動(総合的な学習)として、今回の大震災により総合的な学習の実施が困難な状況となった総合学習助成校等に対して総合学習助成決定額にさらに追加助成を行うことにより、河川環境教育が継続的に実施できるように資機材購入等のための支援を行いました。

### 子どもたちを勇気づける緊急助成

■ 釜石市・鶴住居川流域における子どもたちの川に学ぶ体験活動	NPO 法人 ねおす 理事長 高木 晴光
■ 東日本大震災被災地子ども支援事業「夏休みあおもり自然体験活動キャンプ」	NPO 法人 岩木山自然学校 理事長 高田 敏幸
■ 親子の水辺体験	北上川フィールドライフクラブ 代表 白畑 誠一
■ 和賀川流域の川と森に癒される交流体験学習の推進	特定非営利活動法人 わが流域環境ネット 代表理事 及川 一
■ みんなで考え、行動しよう「子ども閉伊川サミット」の開催	さんりく ESD 閉伊川大学校 代表 褒野 正一
■ 「地域の川：七北田川を知ろう」子供たちの体験学習の推進	仙台市立北中山小学校 校長 杉田 通世
■ さあ、水と親しもう、自然に感謝しよう！	NPO 法人 水守の郷・七ヶ宿 理事長 海藤 節生
■ 「川遊びから学ぶ生きる力」の推進	社団法人 ガールスカウト日本連盟 宮城県支部 支部長 笠間 恵子
■ 阿賀川と遊ぼう“地域を越えて”	阿賀川・川の達人の会 会長 馬場 和廣
■ 思いっきり川遊び、南会津の豊かな自然で子供たちに元気を！	Team 南郷 代表 近藤 一夫
■ 荒川探検隊 (総合的な学習において子ども達が川から様々なことを学ぶ学習)	福島市立佐倉小学校 校長 二瓶 篤子
■ 東日本大震災災害避難者親子を元気づける那珂川の川下り体験学習	NPO 法人 那珂川流域悠遊会 代表理事 吉田 公平
■ 都幾川で遊ぼう (アユ漁、川遊び、水族館づくり)	特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク 代表理事 双木 (恵) 小百合
■ 「川での体験学習」を通じた双葉町と騎西町の子供たちの交流	NPO 法人 川・まち・ひとプロデューサーズ 副代表理事 真下 恵司
■ 水辺の大楽校 ほくらは加治川探検隊!!	特定非営利活動法人 加治川ネット21 理事長 篠田 令子
■ 木曾川ともだちプロジェクト	特定非営利活動法人 元気きそがわ 代表 名和 秀司

### 総合的な学習 (資機材購入等の緊急支援を実施した小学校)

■ 大船渡市立越喜来小学校【岩手県】	校長 今野 義雄
■ 石巻市立吉浜小学校【宮城県】	校長 佐藤 伸昭
■ 石巻市立橋浦小学校	校長 小山 敦夫
■ 石巻市立相川小学校	校長 橋本 恵司



### 「子どもたちを勇気づける緊急助成」採択

- ① NPO法人 ねおす
- ② NPO法人 岩木山自然学校
- ③ 北上川フィールドライフクラブ
- ④ 特定非営利活動法人 わが流域環境ネット
- ⑤ さんりくESD閉伊川大学校
- ⑥ 仙台市立北中山小学校
- ⑦ NPO法人 水守の郷・七ヶ宿
- ⑧ 社団法人 ガールスカウト日本連盟 宮城県支部
- ⑨ 阿賀川・川の達人の会
- ⑩ Team 南郷
- ⑪ 福島市立佐倉小学校
- ⑫ NPO法人 那珂川流域悠遊会
- ⑬ 特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク
- ⑭ NPO法人 川・まち・ひとプロデューサーズ
- ⑮ 特定非営利活動法人 加治川ネット21
- ⑯ 特定非営利活動法人 元気きそがわ

### 東日本大震災のため追加支援をした学校

- ⑰ 大船渡市立越喜来小学校
- ⑱ 石巻市立吉浜小学校
- ⑲ 石巻市立橋浦小学校
- ⑳ 石巻市立相川小学校

## 平成23年度は、国内水害緊急調査3件及び海外水害緊急調査1件について助成しました

平成23年度は、国内水害緊急調査として助成申請があった新潟・福島豪雨、紀伊半島における土砂災害、奄美豪雨について国内水害緊急調査として採択しました。

### 国内水害緊急調査

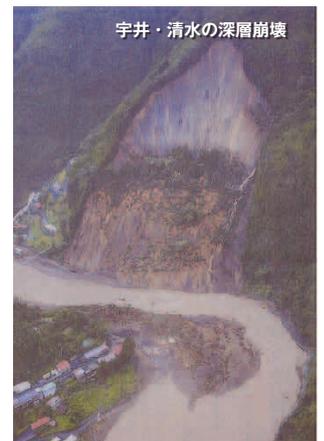
	申請事業名	所属機関名	職名	申請者氏名	採択
1	平成23年7月新潟・福島豪雨に関する調査・研究	土木学会 2011 新潟・福島豪雨災害調査団 金沢学院大学大学院	教授	玉井 信行	H23/8
2	2011年台風12号により発生した紀伊半島の土砂災害に関する調査研究	(社)砂防学会 会長 東京大学大学院 農学生命科学研究科	教授	鈴木 雅一	H23/11
3	2011年奄美豪雨緊急調査	土木学会 奄美水害2011調査団 団長 崇城大学工学部	准教授	森山 聡之	H23/12

所属・職名は採択時点

#### 新潟・福島豪雨の状況(写真:2011 新潟・福島豪雨災害調査団提供)



#### 紀伊半島土砂災害の状況(写真:砂防学会提供)



### 海外水害緊急調査

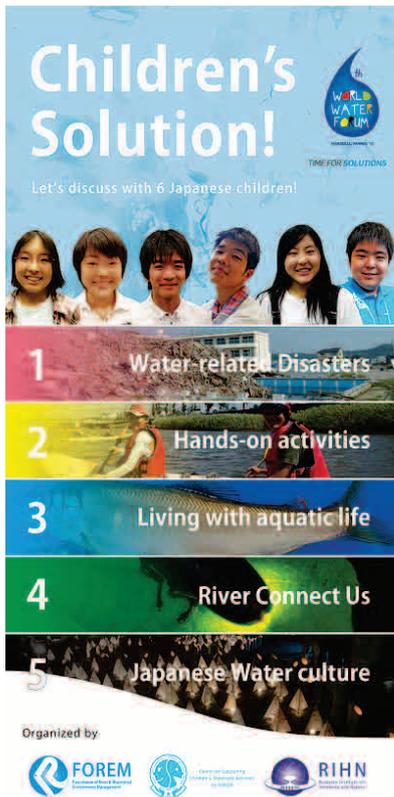
また、平成23年度は、海外水害緊急調査として助成申請があったタイで発生した洪水について助成事業として採択しました。

	申請事業名	所属機関名	職名	申請者氏名	採択
1	2011年タイにおける長期・広域の洪水災害に関する調査研究	土木学会 水工学委員会	委員長	寶 馨	H23/12



(写真:土木学会提供)

## 第6回世界水フォーラム（フランス・マルセイユ）へ子どもたちを派遣しました



### 世界水フォーラムとは？

世界水フォーラムは1997年から3年毎に開催されており、水資源管理、気候変動、水関連災害対策、上下水道、水環境問題など世界的又は地域的な水に関する諸問題が議論されるとともに、水分野担当閣僚が参画する閣僚会議や水に関する展示会が開催されるなど、水に関する意思決定者、ドナー、専門家が一堂に介する世界最大規模の会議です。

ここでの議論の結果は、世界的な水に関する論調や国連機関・各地域・国家レベルでの今後の政策決定・プロジェクトの実施等に重大な影響を及ぼしていくこととなります。

### 第6回世界水フォーラム

日程:2012年3月12日~17日

開催地:フランス・マルセイユ

主催者:フランス外務省・環境省・マルセイユ市  
世界水会議

会議テーマ:Time for Solutions(水問題解決のとき)

※河川整備基金による財団事業として、日本から6名の中高生が参加し発表しました。



日本パビリオンで発表



フランスの子どもたちとエール交換



ワークショップに参加した子どもたちと記念撮影



3/15公式セッションでは、浴衣、道着、法被など日本をアピールする衣装で発表



## 平成23年度河川整備基金助成事業成果発表会 開催報告

平成23年度河川整備基金助成事業(調査・試験・研究部門)の成果発表会を下記の通り開催しました。

日 時：平成23年10月26日(水)・27日(木)

場 所：発明会館ホール(東京都港区虎ノ門)

参加者数：26日81名 27日74名

発表課題は、河川整備基金助成事業成果評価委員会において平成22年度事業成果の中で優秀課題として選定されたものの中から抽出しています。発表課題は、次ページに掲載していません。

※なお、発表会の資料については、「第18回河川整備基金助成事業成果発表会概要集」にとりまとめられています。

また、本成果報告書の詳細については、当財団のホームページにPDFファイルで掲載しています。



## 「川に学ぶ全国事例発表会」開催報告

国民的啓発運動部門の前年度の成果に関する平成23年度の発表会を下記のとおり開催しました。

日 時：平成24年1月27日(金)

場 所：東京海洋大学

後 援：文部科学省、国土交通省、環境省

参加人数：156名

概 要:平成14年4月から学校教育において「総合的な学習の時間」が本格的になり、川を活かした環境学習や体験学習が実践されています。

当財団では、川を活かした総合的な学習の時間に取り組んでいる先進校の事例や川での安全な環境学習・体験学習のノウハウなどを盛り込んだ『川を活かした環境学習・体験学習』に関する全国事例研修会』を平成14年から毎年開催しています。平成21年度から、プログラムを一部変更し『川に学ぶ全国事例発表会』として、一般的な啓発活動部門と合同で開催しています。

発表課題は、P.10に掲載しています。

また、発表課題については、当財団のホームページから全文検索できます。



## 平成23年度河川整備基金事業（調査・試験・研究部門）の優秀成果について

河川整備基金助成事業優秀成果は、平成23年度河川整備基金助成事業成果報告書の中から、河川整備基金助成事業成果評価委員会等において、「成果を広く周知し、活用していくべきもの」と評価され選ばれたものです。なお、河川整備基金助成事業成果評価委員会は、学識経験者、行政担当者等から構成されています。

### <水環境に関する調査・研究>

琵琶湖流域河川における水田施用農薬の残留の現状とリスク低減対策の提案	滋賀県立大学 環境科学部 教授 須戸 幹	◎
詳細調査結果に基づく琵琶湖集水域における面源負荷量の再検討	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター センター長 内藤 正明	◎
流出経路にも着目した流域農地の耕作放棄や田面管理が河川汚濁に及ぼす影響に関する研究	鳥取大学大学院 工学研究科 教授 細井 由彦	◎
富栄養化問題の底質対策・汚濁源対策に対する総合評価による統合的流域管理手法の構築	京都大学大学院 工学研究科 附属流域圏総合環境質環境センター 教授 清水 芳久	◎
地表・地下統合型流域水循環モデルによる水循環指標の構築	東京農工大学大学院 工学研究科 教授 細見 正明	
水資源としての河川・湖沼ウォータフロント健全化のための沈水植物復元浄化新技法の開発	福島大学大学院 理工学研究科 教授 稲森 悠平	
防菌防カビ剤の河川環境における動態と生態リスクの総合的評価	徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 准教授 山本 裕史	
淀川水系の環境水に含まれる生理活性物質の生物多様性の視点からの評価	京都大学大学院 工学研究科 附属流域圏総合環境質研究センター 教授 田中 宏明	

### <川の生態環境に関する調査・研究>

カワシンジュガイによる河川環境評価法を利用した100年間の環境変動要因の抽出	北海道大学大学院 理学研究院 講師 渡邊 剛	◎
絶滅危惧種リュウキュウアユにおける摂餌生態、摂餌場所環境の評価と奄美大島での保全手法の提案 (独)水産総合研究センター 増養殖研究所 生態系保全研究グループ グループ長	井口 恵一郎	◎
手賀沼においてハス群落が水環境に及ぼす影響評価と適切な整備・管理方法に関する研究	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授 山室 真澄	◎
氾濫原における水動態と植生に関する調査研究—渡良瀬遊水地をフィールドとして—	東京大学大学院 工学系研究科 准教授 知花 武佳	◎
扇型簡易礎石付き斜路式魚道（“水辺の小わざ”魚道）の機能等効果把握試験	山口県水産研究センター 所長 仲野 武二	
四万十川スジアオノリの生育環境保全を考慮した河道管理技術に関する基礎的研究	高知工業高等専門学校 准教授 岡田 将治	
湿地植物の多様性に対する「野焼き」の効果の検証	東京大学 農学生命科学研究科 助教 西廣 淳	
植生の生長速度、群落拡大速度と基盤土壌安定性から定まる動的安定状態の解明と土砂管理の影響評価法の作成	埼玉大学大学院 理工学研究科 教授 浅枝 隆	

### <防災・危機管理・市民連携など川と地域社会の係わりに関する調査・研究>

水文確率特性と樹木生態・伐採を考慮した河道内樹林の消長解析と河川管理への適用	神戸大学大学院 工学研究科 教授 道奥 康治	◎
熊本県白川流域における流量と地下水涵養のための取水量との水バランスの適正化に関する研究	広島工業大学 環境学部 地球環境学科 准教授 田中 健路	◎
沿岸都市内を流れる河川の気候緩和ポテンシャルの活用を目的とした周辺市街地の風の道の計画	東北大学大学院 工学研究科 教授 持田 灯	◎
異常豪雨による都市域の大規模氾濫災害に関する調査研究	九州大学大学院 工学研究科 准教授 橋本 晴行	◎
利根川流域における歴史的防水防災施設「水屋（水塚）」の調査・研究	学術団体 日本河川開発調査会 会長 宮村 忠	
河川景観の心理的評価における経時的構造変化に関する研究	広島大学大学院 工学研究科 教授 西名 大作	
高保水性セラミックスを用いた雨水流出抑制・ヒートアイランド緩和に関する効果実証研究	中央大学 理工学部 都市環境学科 教授 山田 正	
2009年8月佐用町豪雨災害に関する調査研究	神戸大学大学院 工学研究科 教授 藤田 一郎	
ヨシ原保全を目的とした航走波対策工背後の水理特性・土砂移動観測を踏まえた対策工配置の最適化に関する研究	埼玉大学大学院 工学研究科 教授 田中 規夫	
河川用移動式トイレの開発に係る技術の研究	日本トイレ協会 会長 平田 純一	
気候変動が積雪地域の利水へ与える影響に関する研究	室蘭工業大学大学院 工学研究科 准教授 中津川 誠	

◎：成果発表会における発表課題

# 平成23年度河川整備基金事業（国民的啓発運動部門）の優秀成果について

平成23年度に完了した河川整備基金助成事業(国民的啓発運動部門)の中から、「成果を広く公開して、河川に対する国民的理解を深め、助成事業の一層の充実を図るため」優秀であると評価され選ばれたものです。

## <啓発一般>

ふるさとの清流を守ろう「子どもオオサンショウウオ博士」育成事業	(岡山県) 真庭遺産研究会 事務局長 徳永 巧	◎
鶴見川流域での小学校等への河川環境学習支援	(神奈川県) NPO 法人鶴見川流域ネットワーク 代表理事 岸 由二	◎
全国各地の河川で水難事故防止に関わる指導者の養成及び現場指導経験の充実	(東京都) NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 代表理事 藤吉 洋一郎	◎
河辺川原・自然環境再生と水辺の楽校創設を目指す実践的な学習活動	(東京都) 青梅・多摩川水辺のフォーラム 代表 渡邊 勇	◎
「魚の心がわかる魚道づくり」をテーマに河川文化講演会等の開催や魚道清掃の実践を通して河川愛護を啓発する活動	(北海道) NPO 法人 北海道魚道研究会 理事長 戸沼 平八	◎
長良川流域の子どもたちの交流を目的とした森・川・海の体験活動事業	(岐阜県) 長良川流域子ども協議会 代表 柴田 甫彦	
水辺の外来生物分布拡大防止に向けた分布調査・防除実験と全国への情報発信 II	(神奈川県) 向上高等学校 生物部 校長 三谷 幸久	
「語り継ぐ災害」出前講座 真間川	(千葉県) 特定非営利活動法人 防災千葉 理事長 小林 宗平	
「子どもの水辺・地域サポーター」講座の開催と地域連携年間プログラム『えどがわ〜郷川(さとがわ) 再発見!』の実施	(東京都) ~えどがわ自遊楽校~みずとみどりの寺子屋 代表 重杉 浩	
「次世代に誇れる三峰川」市民団体の協働による「三峰川みらい計画」のさらなる推進	(長野県) 三峰川みらい会議 代表 織井 秀夫	
都賀川子どもフォーラムから学ぶ地域づくり	(兵庫県) 都賀川を守ろう会 会長 清水 康之	

## <総合的な学習の時間>

思川が結ぶ、心と自然の交流学習	(茨城県) 古河市立古河第五小学校 校長 鶴見 信一	◎
渡良瀬川自然体験学習4~6年「感動体験!川と人々」	(群馬県) 邑楽郡邑楽町立高島小学校 校長 和田 幸子	◎
多摩川安全講座	(東京都) 多摩市立連光寺小学校 校長 藤井 香代子	◎
長良川調査隊「長良川の水を守れ」	(岐阜県) 津市立東江小学校 校長 加納 昭仁	◎
門真市を流れる寝屋川を中心とする河川を使った環境学習の研究	(大阪府) 門真市立第四中学校 校長 村田 良一	◎
総合的な学習の時間における「川に学ぶ体験学習」	(富山県) 朝日町立さみさと小学校 校長 澤木 昇	
たんけん! 発見! ふるさと垂水!	(香川県) 丸亀市立垂水小学校 校長 高橋 真弓	
大谷排水の水質調査を通じた、水質の変化する要因を探る研究	(茨城県) 美浦村立大谷小学校 校長 中山 恵子	
「ふるさとの川・定川」の歴史や自然を学ぶ	(宮城県) 東松島市立赤井南小学校 校長 萩田 隆児	

◎: 全国事例発表会における発表課題

## 平成23年度国民的啓発運動部門 優秀成果の事業実施位置図



## 平成23年度河川整備基金運営審議会開催報告

(財)河川環境管理財団は、河川整備基金について、河川整備基金運営審議会(会長:池田 駿介 東京工業大学名誉教授)を開催し、広く識者のご意見を踏まえながら運営する事としています。河川整備基金運営審議会は、毎年度5月、9月、翌年3月の3回開催しています。

### 学識経験者委員(平成24年3月21日現在)

荒木 泰 臣	全国市町村会常任理事、熊本県嘉島町長
池田 駿 介	東京工業大学名誉教授
岡島 成 行	(公社)日本環境教育フォーラム理事長
島川 文 雄	元(一財)造水促進センター理事長
高橋 恭 平	石油化学工業協会会長
野村 哲 也	(社)日本建設業団体連合会会長
道上 正 規	(財)とっとり地域連携・総合研究センター理事長
八木 誠	電気事業連合会会長
山岸 哲	(財)山階鳥類研究所名誉所長
山田 洋	一橋大学大学院法学研究科教授
山本 和 夫	東京大学環境安全研究センター教授

### 行政委員

内山 俊 一	経済産業省 地域経済産業審議官
関 克 己	国土交通省 水管理・国土保全局長
皆川 芳 嗣	林野庁長官

### 平成23年度第1回河川整備基金運営審議会結果

1. 期日:平成23年6月8日
2. 審議案件及び審議結果
  - 1) 平成22年度河川整備基金事業報告並びに収支決算
  - 2) 東北地方の被災地に対する河川整備基金による緊急支援について
    - (1) 校舎等の被害が甚大なため他校校舎において授業を再開している総合学習助成校に対して、河川環境教育が継続的に実施できるように資機材等の購入を支援するための緊急助成
    - (2) 被災した児童を勇気づけるために行う川での活動に対する緊急支援
      - ① 東北地方の被災した児童等に対する川での体験活動の実施
      - ② 避難生活を送っている児童に対して水に対する教育、川を題材とした体験活動や避難先の児童との川を通じた交流活動に対する緊急助成事業
3. いただいた主な意見  
緊急支援を実施する総合学習助成校と同じ校舎で授業を行っている他校への配慮も必要ではないか。

### 平成23年度第2回河川整備基金運営審議会結果

1. 期日:平成23年8月31日
2. 審議案件及び審議結果
  - (1) 重点研究テーマについて
  - (2) 平成24年度河川整備基金助成事業 助成の規準について
3. いただいた主な意見
  - (1) 重点研究テーマについて  
状況に応じて、適宜、必要な見直しを行うべきではないか。  
重点研究テーマに、社会経済的側面の研究も含めるべきではないか。
  - (2) 平成24年度河川整備基金助成事業 助成の規準について  
指定課題助成に社会経済的側面の研究も含めるべきではないか。  
若手研究者への助成支援は評価できるので、工夫して実施してほしい。

### 平成23年度第3回河川整備基金運営審議会結果

1. 期日:平成24年3月21日
2. 審議案件及び審議結果
  - (1) 平成24年度河川整備基金事業計画について
  - (2) 平成24年度河川整備基金事業収支予算について  
平成24年度事業計画及び収支予算について原案のとおり可決する。

### 参 考

- (1) 河川整備基金の事業内容については、下記ページをご覧ください。  
<http://www.kasenseibikikin.jp/outline/gaiyou.html>
- (2) 河川整備基金運営審議会については、下記ページをご覧ください。  
<http://www.kasenseibikikin.jp/outline/singikai.html>
- (3) 平成24年度の河川整備基金助成事業につきましては、下記ページをご覧ください。  
<http://www.kasenseibikikin.jp/grant/index.html>

厳しい運営環境の中で、より効率的な予算執行に努めています

平成24年度予算は、平成24年3月21日、学識経験者等によって構成されている河川整備基金運営審議会の議を経て、3月28日に開催された理事会において議決されました。

平成23年度決算については、5月21日の河川整備基金運営審議会の議を経て、5月22日の理事会において議決されました。平成23年度の決算と平成24年度予算は次表のとおりです。基金の造成につきましては、平成23年度中に2千1百万円余の寄付金を頂き、全額基金に積み立てました。ご支援をいただいた方々に御礼申し上げます。

平成24年度の助成事業は、調査・試験・研究、環境整備対策および国民的啓発運動の3部門で実施します。

河川整備基金の造成は、目標額300億円を指しておりますので、今後とも引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

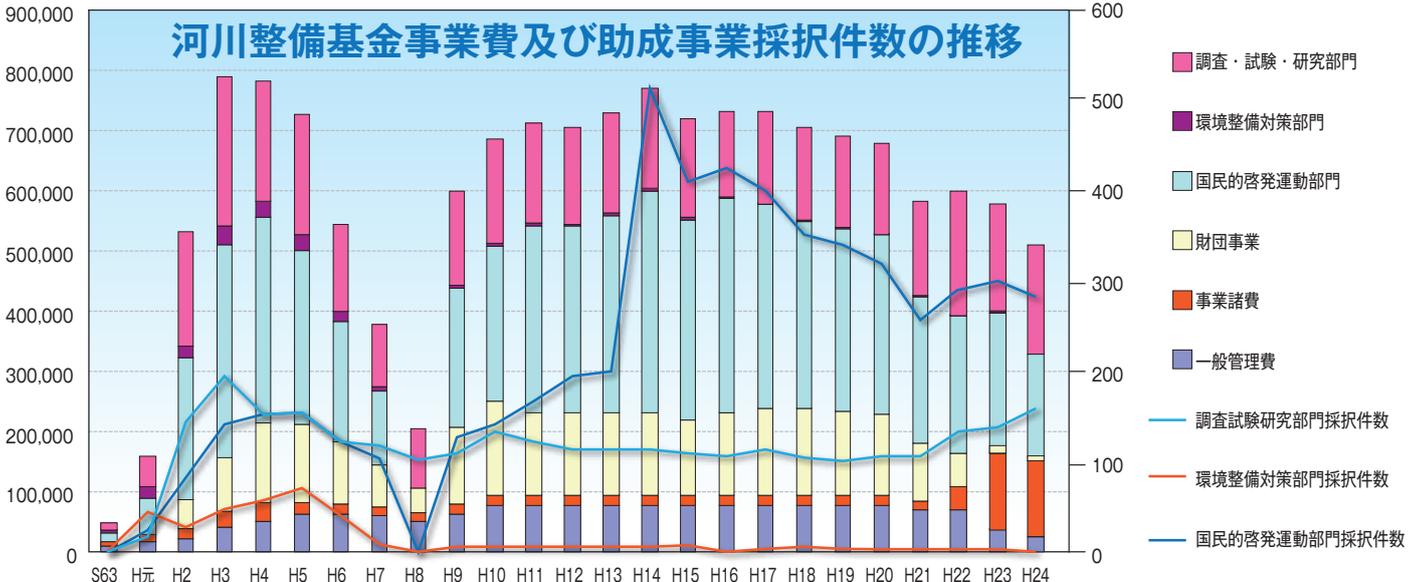
■平成23年度の決算と平成24年度予算

(単位:千円)

区 分	平成23年度決算	平成24年度予算	備 考
<b>1. 収入の部</b>			
寄付金利息収入	475,229	446,000	(基金運用益)
雑収入	15,816	4,000	
計	491,045	450,000	
<b>2. 支出の部</b>			
事業費	507,983	481,130	
助成事業	401,932	360,000	
調査・試験・研究費	178,300	179,700	
環境整備対策費	800	600	
国民的啓発運動費	222,832	179,700	
財団事業費	14,196	9,000	
事業諸費	91,855	112,130	
管理費	28,116	27,440	
人件費支出	22,261	20,740	
管理費支出	5,855	6,700	
固定資産取得支出	921	0	
予備費	0	15,000	
計	537,020	523,570	
当期経常増減額	△45,975	△73,570	
前期繰越収支差額	225,176	179,201	
次期繰越収支差額	179,201	105,631	

基金事業費  
(千円)

採択件数  
(件)



河川整備基金では、毎年基金の運用益を活用してこれまでに100億円、8,200件余の助成事業を実施してきました。

近年は、金利の低下により運用益が減少してきておりますが、今後もコスト縮減に努め助成事業者等の皆様の期待に応えられるよう、取り組んでまいります。

河川整備基金事業着手から25年目に当たる平成24年度については、前年度に引き続き基金の造成に努めるとともに、その運用益により次の通り事業を実施します。但し、運用益については、金利水準の低下に伴い減少する見込みです。

## I. 助成事業

### 1. 調査・試験・研究

河川・ダム・砂防・海岸等の整備、利用を取り巻く重要かつ今日的なテーマに関する幅広い分野の研究者による調査・試験・研究に対し、助成を行います。

#### 1) 指定課題助成

平成24年度は、中長期的に取り組む課題を踏まえ、新たに下記の5つのテーマを設定して募集を行い、21件の応募がありました。

各テーマの採択件数は下記のとおりであり、合計6件について助成を行います。

- ①河川堤防に対する安全性の評価(2件)、②河道及び河川管理施設の維持管理、③河道の植生管理
- ④湖沼の水質管理、⑤水に関する再生可能エネルギーの開発・普及(②～⑤各1件)

なお、継続案件はありません。

テーマ	申請事業名	所属機関名	職名	申請者氏名	期間
①	統合物理探査による河川堤防の安全性評価技術の開発	土木研究所 地質・地盤研究グループ	上席研究員	稲崎 富士	3年
①	堤防の安全技術の研究基盤整備	公益社団法人 土木学会	会長	山本 卓朗	3年
②	河川結水時における津波遡上の挙動解明	北見工業大学	教授	渡邊 康玄	3年
③	植生化が進む砂州河道の地形と植生の管理手法に関する水理研究	群馬大学大学院工学研究科	教授	清水 義彦	3年
④	浅い湖沼への海水導入が物質循環と微生物ープランクトン生態系および湖沼水質に及ぼす影響の総合的研究	鳥取大学大学院工学研究科	准教授	増田 貴則	3年
⑤	再生可能エネルギーとしての水力の価値の評価と開発推進方策に関する調査研究	立命館大学総合理工学研究機構	チエーフロフェッサー	井上 素行	3年

※表のテーマ番号は、各テーマの番号と同じ。

#### 2) 共同的研究助成

全国的な課題となっている重要性及び緊急性の高い研究テーマについて異なる機関や異なる分野間で共同して研究を行うチームに対して助成します。「共同的研究助成」については、今年度の新規採択はありませんが、過年度に採択した継続事業2件に対して助成を行います。

番号	申請事業名	所属機関名	職名	申請者氏名	採択
1	物理探査と室内試験による堤防の内部構造の解明	京都大学大学院工学研究科	教授	岡 二三生	H23
2	Common MP を用いた高度水工シミュレーション環境および周辺技術の開発とそれらの普及	京都大学大学院工学研究科	教授	椎葉 充晴	H22

#### 3) 一般的助成

「河川・ダム等に関する一般的な研究」、「地域環境もしくは広域的な地域環境の保全などに資する水資源・水に関するエネルギーの有効活用に関する研究」等のテーマに対して145件の助成を行います。

平成24年度は、研究経験の少ない若手研究者に対して幅広く研究費を得る機会を与えるため35歳以下の若手研究者が申請する事業の採択率を優遇することとし、32件の応募に対して26件について助成を行います。

また、青少年の「理科離れ」が指摘される中、科学技術好きな中高生をジュニア研究者として遇し、川に関わる研究に参加することを奨励する観点から、「中高校生がクラブ(部)活動で行う調査・研究」を新たなテーマとして設定し、12件の応募がありました。このうち7件について助成を行います。

さらに、助成事業採択決定後、国内及び海外において甚大な水害や社会的に大きな影響を与えた水難事故等が発生した場合など河川事業をとりまく環境に大きな変化があった場合には、今後の河川整備などに対する提案等を行うような調査・研究・広報等に対して助成を行います。この水害等緊急調査に関しては、必要があれば予備費を充当して適切な対応を行います。

## 2. 環境整備対策

水辺環境の向上や利用者の利便向上に寄与する施設の整備について、2件の助成を行います。

### 3. 国民的啓発運動

#### 1) 一般的助成

「川と人々のかかわりを深めるための河川愛護活動・河川環境学習・人材育成」「小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動」「水害対策に関わる活動」等に対して253件の助成を行います。

#### 2) 新設市民団体運営支援助成

発足間もない団体の活動を軌道にのせるために最長5カ年にわたり助成を行う新設市民団体運営支援助成については、新規採択案件6件と過年度に採択した継続事業24件の合計30件に対し助成を行います。

## II. 財団事業

### 1. 調査研究事業

平成23年度から施行された新しい学習指導要領に鑑み、小中学校において、教科学習、総合的学習等のなか  
に、治水、利水、環境のバランスのとれた河川教育が実践されるよう、河川環境教育が置かれている現状と課  
題を分析し、河川教育の基本的なコンセプトや小中学年における段階的な河川教育の到達目標等を示すため「水  
教育に関するガイドライン策定」のための研究を行います。

これにより、河川整備基金の目的のひとつである国民的啓発運動がより円滑に進められることが期待されます。

### 2. 国民的啓発運動(河川教育)事業

次世代を担う水に関するオピニオンリーダーの育成を目指し、全国から水に関心のある中高生が水に関して議  
論する「全国中高生水フォーラムー未来につなぐ水のリレーー2012」を実施します。また、この大会では第6回  
世界水フォーラムのフォローアップもあわせて実施します。

事業名	内 訳	金額(千円)
調査・研究事業	水教育ガイドラインの策定に関する研究	4,000
国民的啓発運動(河川教育)事業	「全国中高生水フォーラム」の実施	5,000
財団事業計		9,000



世界子ども水フォーラム・フォローアップの様子(2011年)

## III. 事業諸費

### 1. 助成事業実施経費

10月から11月末までの2ヶ月間、平成25年度の助成事業の新規募集を行います。今年度も関係機関の広報誌やホームページに助成事業募集案内を掲載すると共に、国、地方公共団体、大学等の研究機関、NPO法人等に募集のチラシを配布し、助成事業募集の周知に努めます。

申請案件については、学識者等に依頼して申請書の審査を行うと共に審査部会を開催し、採択案件の選定を行います。

### 2. 助成事業普及経費

平成23年度に実施した助成事業の成果については、学識者等に助成事業の成果の評価を依頼し、優秀成果を選定します。これらの成果を広く公開し活用すると共に河川に対する国民的理解を深め、助成事業を一層充実させるため、調査・試験・研究部門については、河川整備基金助成事業成果発表会を開催します。国民的啓発運動部門については、平成25年1月に全国事例発表会を開催し、優秀成果の発表を行います。

### 3. 助成事業推進経費

河川教育の推進等に関して「子どもの水辺サポートセンター」を運営し、子どもの水辺再発見プロジェクト普及・推進、水辺の活動に関する水難事故情報やその他各種情報の提供、河川学習教材の開発・提供・研究、資機材の貸し出し等の体験活動の支援、川の指導者育成等を行います。



**Eボート**  
非常に安定した10人乗りの大型ゴムボート



**スローロープ**



**ライフジャケット**  
(左:子ども用、右:大人用)



**【水辺のサポートセンターが保有する資機材】**

資機材	数量
ライフジャケット (子ども用)	300 着
ライフジャケット (大人用)	140 着
ヘルメット	70 個
スローロープ	60 本
Eボート	5 艇

**◇平成 24 年度の活動予定**

	実施予定項目	実施予定日時
1	「子どもの水辺」登録	随時受付中
2	メールマガジン	毎週金曜日発行中
3	体験活動用の資機材の貸し出し	随時受付中
4	全国中高生水フォーラム	8 月開催予定
5	プロジェクト WET のファシリテーター養成講習会	1 月頃開催予定
6	川に学ぶ体験活動協議会の川の指導者（リーダー）養成講習会	6 月開催予定

**4. 管理費**

上記、1,2,3を実施するための事務費、人件費の支弁を行います。

事業名	内 訳	金額 (千円)
助成事業実施経費	助成事業募集及び審査	11,900
	助成事業指定課題初年度ヒアリング、共同的研究助成中間報告会等	2,000
	助成事業現地調査	600
	助成事業成果管理	7,100
	(小計)	21,600
助成事業普及経費	助成事業成果評価	1,500
	助成事業検索システム	1,700
	助成事業の成果発表会	4,700
	(小計)	7,900
助成事業推進経費	子どもの水辺サポートセンター運営事業	21,000
	子どもの水辺サポートセンター運営	5,000
	川の体験活動指導者の育成	10,000
	学校などにおける河川学習のための活動への支援	6,000
	河川整備基金中期計画策定経費	500
(小計)	21,500	
管理費	人件費	44,716
	事務費	16,414
	(小計)	61,130
事業諸費計		112,130
一般管理費支出		27,440

## 平成24年度河川整備基金助成事業の変更点等について

平成24年度から、社会情勢の変化等に対応するため指定課題助成等について新規テーマの見直し等を行いました。また、助成事業による研究成果等をより一層社会に活用・還元させるため、新たに研究成果の表彰を行うこととしました。

### 新規テーマの創設等

#### 1. 重点研究テーマ

中長期的に取り組むべき課題を踏まえ、指定課題のテーマを下記のように見直しました。

- ①河川堤防に対する安全性の評価
- ②河道及び河川管理施設の維持管理
- ③河道の植生管理
- ④湖沼の水質管理
- ⑤水に関する再生可能エネルギーの開発・普及

#### 2. 中・高校生がクラブ活動で行う調査・研究の助成テーマを新設しました。

中学生及び高校生を対象として、中学校・高等学校がクラブ(部)活動で行う調査・試験・研究に対して助成を行います。助成限度額は50万円です。(ただし、中学校は30万円。)

#### 3. 35歳以下の若手研究者による調査・研究の支援

研究経験の少ない若手研究者に対して幅広く研究費を得る機会を与え、研究者として良いスタートを切れるように、若手研究者が申請する事業の採択率を優遇し若手研究者の支援を行うこととしました。

(対象は共同研究者も含めて35歳以下です)

### その他の変更点及び事業実施に伴うお願い

#### 1. 河川整備基金助成事業の申請がインターネットでできるようになりました。

助成事業申請書の記入ミスや記入漏れ等をなくすと共に、申請作業をさらに効率化するため、平成24年度助成事業からインターネットによるオンラインで申請できるシステムを構築しました。なお、急激なシステム切り替えにより申請者が戸惑うことがないように、平成24年度助成事業の申請では、これまでどおり電子メールによる申請もできるようにしました。

しかし、平成25年度助成事業からは、助成事業の申請はインターネットのみとなりますので、ご注意ください。

#### 2. 研究成果活用の報告

調査・試験・研究部門において、助成事業が終了しその研究成果が社会に活用・還元されている場合は、当財団事務局(研究一部基金班)まで報告していただくようお願いします。

報告していただいた成果と活用事例については、当財団のホームページに掲載します。

なお、助成事業終了3年後(4月頃)に当財団から活用事例について、一斉メールで報告をお願いしますのでご協力ください。

#### 3. 河川整備基金助成事業による研究成果の表彰

河川、ダム事業やそれととりまく社会に対して、卓越した功績が認められる学術貢献成果及び技術開発成果を上げた助成研究者に対しては、審査の上、表彰を行います。

詳細については、P19をご覧ください。

# 平成24年度助成事業 総括表

## 調査・試験・研究部門

(金額:千円)

番号	助成	テーマ番号	テーマ名	採 択		申請状況	
				件数	金額	件数	金額
1-1	指定課題助成	1113	1) 河川堤防に対する安全性の評価	2	4,400	2	7,880
		1114	2) 河道及び河川管理施設の維持管理	1	2,000	4	11,832
		1115	3) 河道の植生管理	1	2,400	2	9,340
		1116	4) 湖沼の水質管理	1	2,400	6	29,500
		1117	5) 水に関する再生可能エネルギーの開発・普及	1	2,400	7	33,738
			(過年度採択)	0	0	0	0
	小 計			6	13,600	21	92,290
1-2	共同的研究助成	1151	課題を指定せず、河川整備事業等で全国的課題となっている重要性の高い研究テーマに対し、複数の分野からなる研究チームに重点的に助成	0*	0	9	41,470
			(過年度採択)	2*	7,500	2	7,500
		小 計				7,500	11
1-3	一般的助成		1) 河川・ダム等に関する一般的な研究				
		1211	①流域内の健全な水・物質循環の構築に関する研究	32	36,100	65	126,479
		1212	②河川工学、水文学などに関する研究	11	10,800	20	36,294
		1213	③水害・土砂災害等の被害の軽減に関する研究	19	20,100	39	77,384
		1214	④総合的な水資源対策に関する研究	2	3,100	8	19,030
		1215	⑤生態系・景観など河川環境の向上及び河川環境教育の高度化に関する研究	47	50,600	93	181,566
		1216	⑥川づくりにおける地域の歴史・文化等との係わりに関する調査及び研究	6	7,400	13	33,551
		1217	⑦川づくり・まちづくりにおける地域との連携に関する研究	4	5,000	16	29,625
		1218	⑧水に関する法制度、治水対策や利水対策等における経済効果に関する研究	3	2,900	5	8,172
		1219	⑨その他	3	5,100	5	15,224
		1221	2) 地球環境もしくは広域的な地域環境の保全などに資する水資源・水に関するエネルギーの有効活用に関する研究	2	2,200	4	7,667
		1251	3) 国内で発生した甚大な水害等の緊急調査	0	3,200*	0	0
		1261	4) 小中高等学校の総合的な学習、教科学習における河川を題材とした教育プログラムの策定及び実践	3	850	8	3,508
		1262	5) 中高生がクラブ(部)活動で行う調査・研究	7	2,050	12	5,430
		1271	6) 指定課題助成(1113～1117)と同一のテーマ	6	6,600	16	31,023
		1301	7) 海外で発生した甚大な水害等の緊急調査	0	2,600*	0	0
			小 計			145	158,600
(調査・試験・研究部門 計)				153	179,700	336	716,213

## 環境整備対策部門

(金額:千円)

番号	助成	テーマ番号	テーマ名	採 択		申請状況	
				件数	金額	件数	金額
2		2001	環境整備対策	2	600	2	764
(調査・試験・研究部門 計)				2	600	2	764

## 国民的啓発運動部門

(金額:千円)

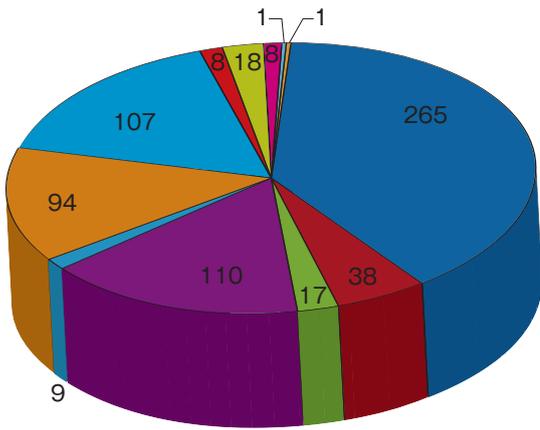
番号	助成	テーマ番号	テーマ名	採 択		申請状況	
				件数	金額	件数	金額
3-1	一般的助成	3111	1) 川と人々のかかわりを深めるための河川愛護活動・河川環境学習・人材育成	84	70,910	129	247,870
		3121	2) 小中高等学校の総合的な学習の時間における河川を題材とした活動	114	11,290	110	11,187
		3131	3) 防災ボランティア等の活動	3	3,100	8	14,548
		3141	4) 水害対策に係わる活動	8	13,100	11	36,512
		3151	5) 水利用の合理化・高度化・水と産業とのかかわり等に関する普及啓発活動	6	10,900	9	28,050
		3161	6) 流域間・流域内交流	15	16,500	20	54,493
		3171	7) 河川に関わる国際交流活動	8	15,000	11	44,917
		3181	8) 河川文化講演会等の開催	9	13,200	12	39,026
		3191	9) その他	6	13,700	8	28,001
			小 計			253	167,700
3-2	新設市民団体運営支援助成	3201	新設市民団体運営支援助成	6	1,950	22	10,303
			(過年度採択)	24*	10,050	24	10,050
		小 計			30	12,000	46
(国民的啓発運動部門 計)				283	179,700	364	524,957
<b>3部門合計</b>				<b>438</b>	<b>360,000</b>	<b>702</b>	<b>1,241,934</b>

※過年度採択分

☆24年度発生災害対応

# 平成24年度河川整備基金助成事業における所属機関別申請件数

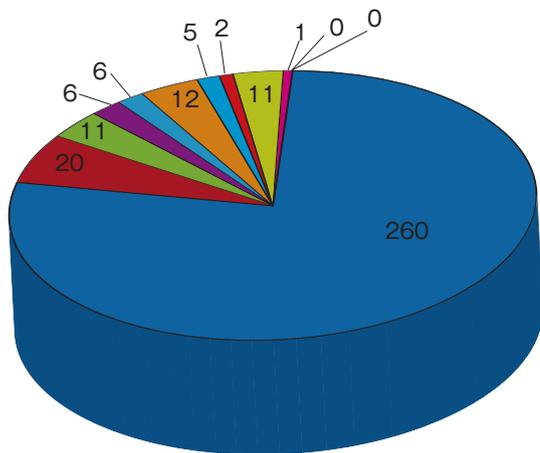
## 所属機関別の申請件数



- 大学
- 公益法人
- 地方公共団体
- 任意団体
- 民間・個人
- NOP 法人
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 協議会
- 商工会
- その他

平成24年度の全部門における新規申請件数676件のうち、大学が265件を占めています。以下、任意団体110件、小学校107件、NPO法人が94件となっています。

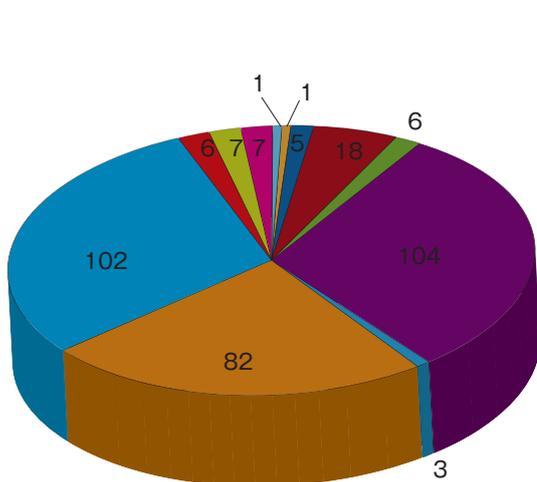
## 調査部門における所属機関別申請件数



- 大学
- 公益法人
- 地方公共団体
- 任意団体
- 民間・個人
- NOP 法人
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 協議会
- 商工会
- その他

調査部門では、新規申請件数334件のうち、大学が260件と約8割を占めています。

## 啓発部門・環境部門における所属機関別申請件数



- 大学
- 公益法人
- 地方公共団体
- 任意団体
- 民間・個人
- NOP 法人
- 小学校
- 中学校
- 高等学校
- 協議会
- 商工会
- その他

啓発部門・環境部門では、新規申請件数342件のうち、任意団体が104件、NPO法人が82件っており、両方で1/2以上を占めています。

# 河川整備基金助成事業による研究成果表彰制度を創設しました

## 【表彰の対象】

### 1. 学術貢献分野

河川、ダムに関する学術及び技術の進歩を通して河川、ダム事業やそれを取りまく社会に対して卓越した功績が認められる学術貢献成果を上げた助成研究者

### 2. 技術開発分野

河川、ダムに関する学術及び技術の進歩を通して河川、ダム事業やそれを取りまく社会に対して卓越した功績が認められる技術開発成果を上げた助成研究者

## 【応募資格】

### 1. 学術貢献分野

以下の①～③を全て満たす助成研究者等

①平成21年度(22年3月)に終了した助成研究、平成22年度(23年3月)に終了した助成研究、平成23年度(24年3月)に終了した助成研究。

②助成研究成果報告書が提出済みであり、河川整備基金の成果報告書・全文検索によって公開されているもの

③助成研究成果報告書と関係の深い対外発表で、次の2つの条件を満たす査読論文が1件以上あること。

(応募する時点において、査読が完了し論文誌への掲載が決定していれば、発刊前でも可。)

1)原則として、発刊機関の受付(Received)日が助成研究開始から3ヶ月経過以降であること、又は受理(Accepted)日が助成研究開始から4ヶ月以降であること。

2)本財団の資金援助を受けたことが記載されていること

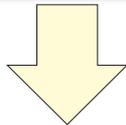
### 2. 技術開発分野

以下の①～③を全て満たす助成研究者等

①平成21年度(22年3月)に終了した助成研究、平成22年度(23年3月)に終了した助成研究、平成23年度(24年3月)に終了した助成研究。

②助成研究成果報告書が提出済みであり、河川整備基金の成果報告書・全文検索によって公開されているもの

③助成研究により開発された技術が実用に供されているもの



## 【審査対象書類】

### 1. 学術貢献分野

①助成研究成果表彰申請書

②提出済みの助成研究成果報告書

③対外発表の査読論文1件以上

### 2. 技術開発分野

①助成研究成果表彰申請書

②提出済みの助成研究成果報告書

③助成研究と実用に供されている技術との関係が分かる資料

※詳細は当財団のホームページをご覧ください。

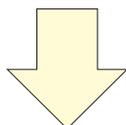
<http://www.kasenseibikikin.jp/>

## 【応募期間】

平成25年1月中旬～2月末日

※申請先 E-mailアドレス

kikin-toi@kasen.or.jp



## 【表彰】

36歳以上の研究者及び35歳以下の若手研究者をそれぞれ表彰します

※「若手研究者」は、助成時点で満35歳以下の研究者をいう

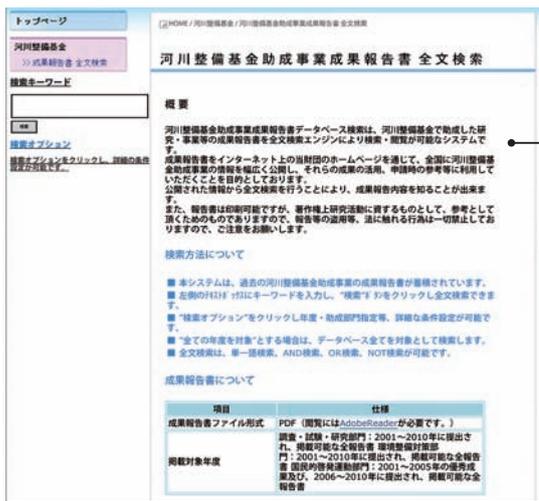
表彰式を行い、引き続き記念講演会を予定しています

助成事業の成果報告書が検索できます

過去の助成成果が検索できます

当財団のホームページから調査・試験・研究部門の助成研究の成果、国民的啓発運動部門の助成成果について、キーワードを入力して報告書の全文検索ができます。

平成24年7月現在、平成13年度以降の助成成果報告書を財団ホームページから検索できます。(詳細は次ページをご覧ください)  
(一部、概要版のみのものもあります)



助成事業者が自ら情報発信することができます

助成事業者自らが催し物やイベント情報を発信することができます。助成事業で実施するイベント等がありましたら、自由に広報してください。

写真やポスター、イベント会場の案内図等も掲載できます。

※掲載する際には当財団の事前承認が必要です。

### 平成23年度 水辺に集まれ！ (活動告知)

#### 多摩市水辺の楽校Presents! 「多摩川カヌー体験教室」参加者募集

採択助成番号 23-3201-003

活動種別 イベント開催

実施場所 多摩市一ノ宮「一ノ宮公園」

実施期間 2011年10月08日～2011年10月09日

実施団体 多摩市水辺の楽校運営協議会

代表者 西厚

本文

来る平成23年10月8日、9日に東京都多摩市一ノ宮の「一ノ宮公園」で「多摩市水辺の楽校Presents! 「多摩川カヌー体験教室」」が開催されます。お近くの方は是非ご参加ください。

なお、このイベントを主催する「多摩市水辺の楽校運営協議会」は河川整備基金の助成を受けています。

【日時】平成23年10月8日(土)・9日(日)の午前・午後  
 午前の部：9時30分～12時  
 午後の部：13時15分～15時45分  
 【場所】一ノ宮公園  
 【対象】小学1年生～中学3年生  
 【定員】200名(申込み多数の場合抽選)  
 【費用】300円(行事保険費用)

申込方法はE-mailまたはFAXをお願いします。  
 (1)FAXの場合：  
 添付のイベントチラシに必要事項をご記入の上042-202-0881まで。  
 (2)E-mailの場合：  
 「10月8・9日多摩川カヌー体験申込み」「名前」「年齢(学年)」「住所」「電話」「コース」をご記入の上以下のアドレスまで。



活動の様子を自由にレポートできます

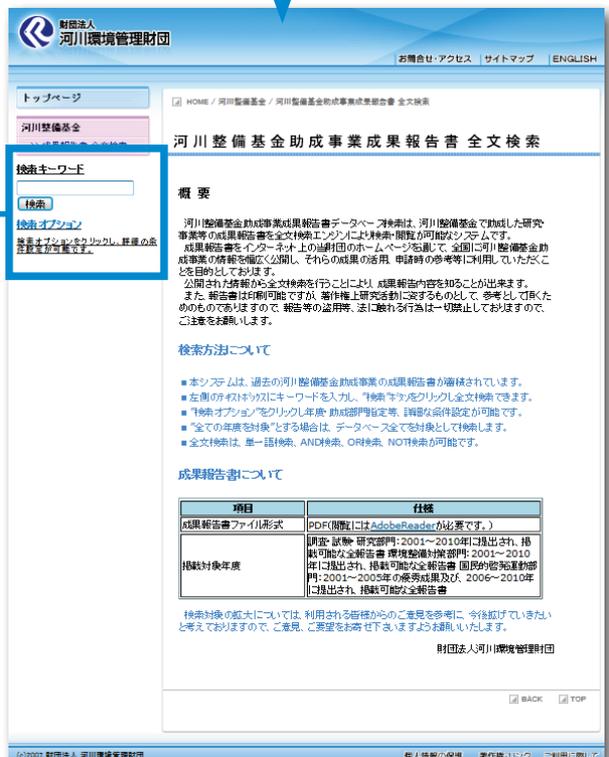
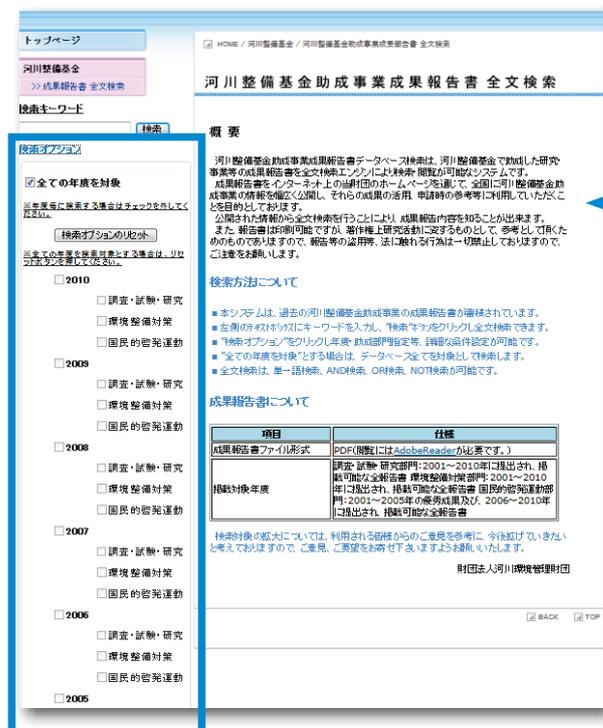
～水辺からのレポート～

皆様の生の活動の成果をできるだけわかりやすく伝えることができよう「水辺からのレポート」のページを作りました。写真はもちろん、動画も掲載できますので、どしどしお使いください。

※掲載する際には、当財団の事前承認が必要です。



財団トップページ



検索オプションでは、事業年度や部門（調査、啓発、環境）を指定して検索することができます。

検索キーワードを入力すれば該当する事業の成果を画面で確認できます。報告書の印刷も可能です。※著作権は事業者にありますので使用される際はご注意ください。

# お知らせ

## 「第19回河川整備基金助成事業成果発表会」のご案内

本成果発表会は、河川整備基金助成事業の成果をできるだけ多くの方々に共有の財産として周知を図り、広く活用していただくとともに、助成事業の一層の充実を図ることを目的として毎年10月に開催しているものです。

発表会は、調査・試験・研究部門について「川の生態環境に関する調査・研究」、「防災・危機管理・市民連携など川と地域社会の係わりに関する調査・研究」、「水環境に関する調査・研究」および「指定課題助成・共同的研究助成」の四つのセッションに分け、その成果の発表及び発表者と参加者による質疑応答や意見交換が行われます。

今回の発表は、平成23年度助成事業の優秀成果等を対象として、下記により開催します。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

国民的啓発運動部門の活動成果の発表については、調査・試験・研究部門と分離して平成25年の1月に別途開催(下段参照)を予定しています。

開催日時：平成24年10月25日(木) 13:00~18:00(予定)

会場：TKP小伝馬町ビジネスセンター

定員：100名(参加費無料)

主催：(財)河川環境管理財団

## 「川に学ぶ全国事例発表会」の開催について

「子どもの水辺サポートセンター」では、子どもたちの水辺での体験活動を推進するために、市民団体の方々、教育関係者、河川管理者等による活動を支援しています。その一環として、小・中・高等学校や市民団体等が実施している河川体験活動の事例発表会を毎年開催しており、今回で11回目となります。

発表会では、水辺を活かした体験活動に取り組んでいる先生、市民団体からの事例紹介や意見交換を行います。日頃、皆さんが感じている課題の解決と参加者間の交流の場となりますので、是非ご参加ください。

開催日時：平成25年1月18日(金) 10:00~17:00

会場：TKP小伝馬町ビジネスセンター

定員：300名(参加費無料)

参加対象：水辺活動に関心のある小・中・高等学校の先生、市民団体、行政関係者の方々

主催：(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター

プログラム：関係省庁の水辺体験活動に関する支援策の紹介、水辺での環境学習・体験活動に関する事例発表、意見交換など

# お知らせ

## 河川整備基金助成事業の優秀成果について

平成19年度から河川整備基金助成事業の優秀成果として選定されたことを助成事業者へ通知することとしました。優秀成果については、前年度の助成事業成果報告書の中から、河川整備基金助成事業成果評価委員会等において「成果を広く周知し、活用を図っていくべきもの」と評価されたものから助成事業成果発表会での報告や河川整備基金だより、財団ホームページ等の広報ツールによって紹介を行っています。

### 【調査・試験・研究部門】

平成22年度の優秀成果は、27件を選定して通知しました。

また、優秀成果として選定された事業者については、次年度以降の助成事業審査にあたり加点要素としており、優秀成果の通知を受けた大学等の研究者についても大学内での研究実績として評価される等のプラスの効果が現れています。

### 【国民的啓発運動部門】

平成22年度の優秀成果は、20件を選定して通知しました。

調査・試験・研究部門同様、次年度以降の助成事業審査にあたり加点要素としております。

啓発活動のはげみになると評価する声も多く、より積極的な活動に繋がっているものと思料します。

## 河川整備基金助成事業における重複請求等の不正行為について

河川整備基金は国民各層・企業等による貴重な資金の拠出(寄付)を受けて成り立っているものです。

河川整備基金の募集要項にも助成金の交付、取り消しについて記載していますが、河川整備基金助成事業以外の事業間で重複する請求が確認された場合は、不正行為と認定し、助成金の返還と加算金の支払を求めることになります。

助成金は適切に執行していただくよう、助成事業に関係する方々のご理解とご協力をお願い致します。

あなたの研究・活動を支援します

## 助成事業の年間スケジュール予定

9月 助成事業募集要項の決定 (河川整備基金運営審議会)

10月 募集要項配布／募集受付開始

11月 募集受付締切

3月 年度予算および助成事業の決定 (河川整備基金運営審議会)  
申請者への採否通知

4月 請書提出／助成事業着手

平成25年度の助成事業から、申請受付はオンラインのみになります。皆様のご理解、ご協力をお願いします。

翌年 3月 助成事業終了

4月 助成事業成果報告書の提出／助成金精算

## 河川整備基金へのご協力にあたって

我が国では、国土保全と国民生活の安定を図るため治水施設の整備と水資源の開発が進められ、我が国の発展を支えてきました。しかしながら、依然として水害は各地で発生し水不足の懸念は継続しているため、治水対策等の推進は重要です。

「河川整備基金」は、昭和63年3月に設立され、国や地方公共団体による河川整備と相まって、その効果を高めるための多様な調査・研究や活動に助成をしてくれています。

国民各位及び各団体におかれましては、このような河川整備基金の趣旨をご理解いただき、本基金のさらなる造成のためにご支援くださるようお願い申し上げます。

### 【募金申し込みの方法】

当財団(担当：経理課)にお申し出下されば、寄付金申込書を送付しますので、これに署名捺印の上ご返送下さい。

### 【振込み方法】

●郵便口座へご送金いただく場合(当財団にお申し出くだされば、振込料加入者負担の郵便為替払込書を送付いたします。)

○郵便振替口座番号 00160-3-25500

○加入者 財団法人 河川環境管理財団 河川整備基金

●銀行口座にお振込みいただく場合

銀行名	店名	科目	口座番号
三井住友銀行	東京公務部	普通	0865798
みずほ銀行	新橋支店	普通	1708877
三菱東京UFJ銀行	東京公務部	普通	1093530

口座名 財団法人 河川環境管理財団 河川整備基金